

「小石川植物園の台風被害(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

台風19号から約十日後の小石川植物園を訪ねたが、最初は建物にも樹木にも、目だった被害は見られなかった。私はほっとして、スケッチのお気に入りの場所に向かった。しかしその途中で、倒れた大木に出会うことになった。



かなりの大木が倒れている。根こそぎ倒れたというよりは、幹の途中から完全に折れてしまったように見える。



内部は腐っていた。もともとこの木は、内部が腐って半ば空洞になっていたようだ。樹木の腐朽(ふきゅう)は大きく分けると、白色腐朽(白腐れ)、褐色腐朽(赤腐れ)、軟腐朽(黒腐れ)の3種類があり、それぞれ原因になる菌種がちがう。シイタケやナメコなどの食用担子菌は、「白色不朽菌」と呼ばれ、材は白腐れを起こすことが多い。サルココシカケの仲間「赤腐れ」を引き起こす。



この木は「赤腐れ」を起こしていたようだ。内部が見えていたのでよく観察すると、赤く変色した材の隙間に、白い菌糸がびっしりと蔓延していた。この菌糸こそが、木材不朽菌の実体である。



倒れていたのは「ギンヨウボダイジュ」という、欧州から西アジアに分布する、珍しい種類である。この種名プレートは、植物園後援会が設置したもので、倒れた木の下に、無残に落ちていた。



倒れた菩提樹が道を塞いでいたのだろう。入園者の安全の為に、材は輪切りにされてころがっていた。つい最近輪切りにされたのか、切断面にはまだ水分が豊富に残っていた。私はこの切断面をよく観察してみた。